

ホールボディカウンタ(WBC)検査

(放射線内部被ばく検査)の結果報告

村は、放射線への不安を軽減し、長期的な健康管理を進めるため、独自にホールボディカウンタを購入し、秀公会・あづま脳神経外科病院で内部被ばく検査を実施しています。
平成24年度・25年度の内部被ばく検査解析の結果、受検者すべてが1ミリシーベルト未満でした。
今回は、内部被ばく検査結果の概要についてお知らせします。

内部被ばく検査の
検査概要

- 1 平成24年度に比べ、平成25年度は放射性セシウムの検出者が減少している
- 2 未成年者においては、平成25年度の検出者はゼロ
- 3 検査を受けた村民のほとんどが、年間内部被ばく線量として0.1ミリシーベルトを超えない



検査結果の対象者は

受検者のうち、同意書を提出していただいた方を解析対象としています。
平成24年度は、60歳代の受検者が多く、平成25年度は、15歳以下が増えています。
これは、村の幼・小・中学校に通う子どもたちを対象に、授業時間内に病院までスクールバスで送迎し、原則全員検査を行った結果によるものです。(▶グラフ1)

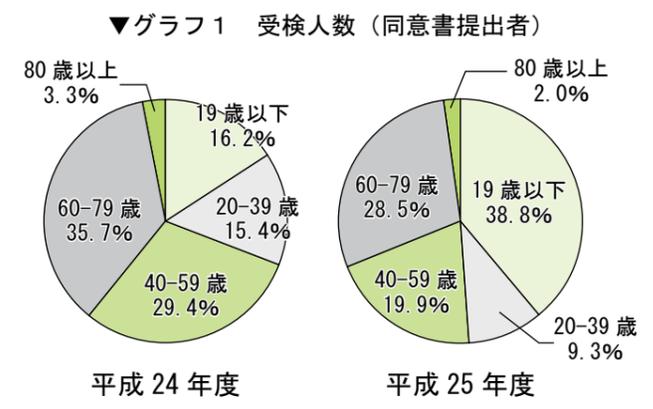


表1 内部被ばく検査結果

内部被ばく 検査年度	受検者数 (同意書提出者数)	年間内部 被ばく線量 1ミリシーベルト 未満	WBCの検出限界値と「検出されず(ND)」の方	
			セシウム 134	セシウム 137
※平成25年 12月末現在			150ベクレル 未満/全身	170ベクレル 未満/全身
平成24年度	1,447人	1,447人	1,283人 (88.7%)	
平成25年度	1,161人	1,161人	1,094人 (94.1%)	

検査結果について

2か年のホールボディカウンタ検査結果で、ほとんどの方は、年間の内部被ばく線量0.1ミリシーベルト未満でした。(▶表1) 特に未成年者については平成25年度の検出者はゼロでした。

放射性物質が
体内に入る
3つの経路

- 1. 食べ物や飲み物を通じて入る(経口的)
- 2. 皮膚を通して入る(経皮的)
- 3. 呼吸するとき鼻や口から入る(経気道的)

これらの1~3を通じて放射性物質が体内に取り込まれることによって内部被ばくすることになります。2、3については、現在日常生活では心配するレベルではありません。現在、内部被ばくの原因になっているのは食べ物や飲み物を通じた内部被ばくです。
普段からの食生活に気をつける必要があります。



具体的に、どんなことに
気をつければいいのか?



日常生活で気をつけるべきこと

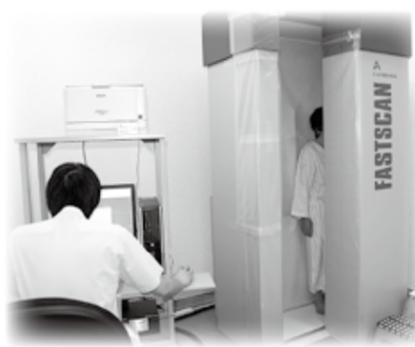
内部被ばく量が増える理由の一つは、放射性セシウムを含む食品を、日常的に飲食することです。
特に、出荷制限のかかっているような食材を、未検査で飲食することが大きな要因とみられています。
左の項目のとおり、食材の購入先や出荷制限のある食材に気をつけましょう。



気をつけよう!こんなこと

- ◆ 食材はスーパーや市場で購入しましょう。(福島県産の農産物は検査で安全が確認されています)
- ◆ 特に、出荷制限のある食材や未検査の食品は飲食しないことが大切です。
- ◆ 天然の山菜やキノコは持ち出さない・食べないが基本です。
- ◆ 長期的な健康管理を進めるため、定期的に内部被ばく検査を受けましょう。

定期的に内部被ばく検査を受けましょう



- 検査可能日** 毎週月曜日から日曜日(祝日・年末年始を除く)
- 検査時間** 8:00~12:00 / 13:00~17:30
- 実施方法** 据置型ホールボディカウンタ(立立式)による検査
- 対象者** 満1歳以上
- 検査場所** あづま脳神経外科病院(福島市大森字柳下16番地の1)
- 検査申込** 原則予約制ですので、予めお申し込みください。

★予約専用電話 080-5737-5123 または 080-5737-5124

今回の結果は、飯館村健康リスクコミュニケーション推進委員会委員の福島県立医科大学放射線健康管理学講座・助手 宮崎 真先生の解析をもとに村がまとめたものです。詳細については、飯館村ホームページに解析結果を掲載しておりますのでご覧ください。